家族でアイデアをつめこんだ家

Memo ［メモ］男の部屋

平成16年10月1日発行（毎月1回1日発行）
第5巻第10号（通巻50号）
平成12年10月5日第3種郵便物認可

10
OCT.2004
定価530円

◎壁・窓・建材も選べます
家づくり最新パーツブック

◎林望の「あらためて陰[illegible]
◎古山浩一の「万年筆画家が行く」
◎[illegible]の「[illegible]迷宮」
◎和みの空間に心も満腹
古民家のレストラン
◎男の夢を叶える「書斎術」
こんな書斎が欲しい

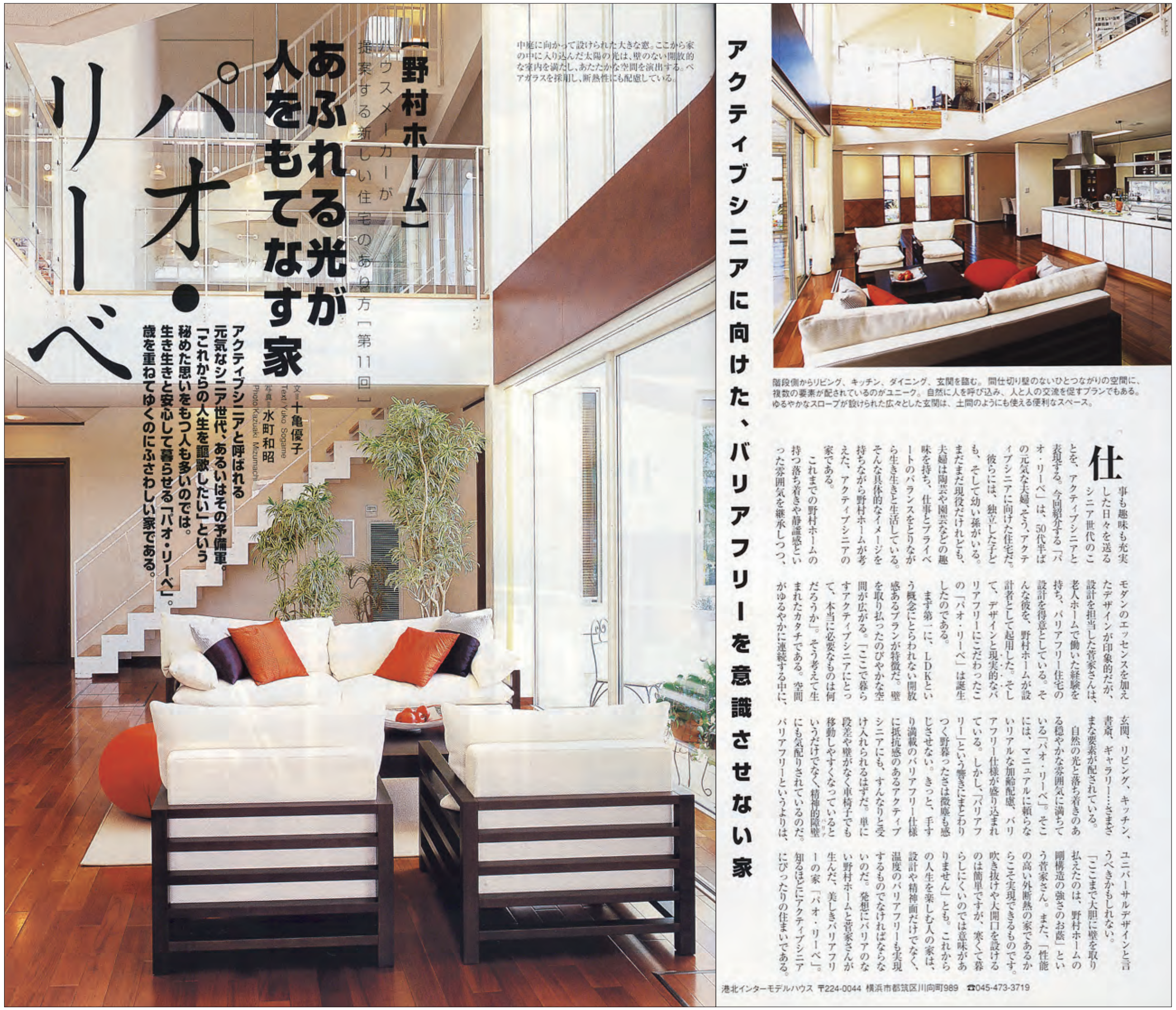
90％の不安と10％の自信が大成功への道

アイデア住宅。

5人息子のための
4連学習机のアイデア

デッキ・スロープが癒しのベランダを
創るアイデア

構造と収納を兼ねた250個のボックスで
埋め尽くすアイデア



ハウスメーカーが提案する新しい住宅のあり方［第11回］

【野村ホーム】

あふれる光が人をもてなす家

パオ・リーベ。

文＝十亀優子
Text Yuko Sogame
写真＝水町和昭
Photo Kazuaki Mizumachi

アクティブシニアと呼ばれる元気なシニア世代、あるいはその予備軍。「これからの人生を謳歌したい」という秘めた思いをもつ人も多いのでは。生き生きと安心して暮らせる「パオ・リーベ」。歳を重ねてゆくのにふさわしい家である。

中庭に向かって設けられた大きな窓。ここから家の中に入り込んだ太陽の光は、壁のない開放的な室内を満たし、あたたかな空間を演出する。ペアガラスを採用し、断熱性にも配慮している。

アクティブシニアに向けた、バリアフリーを意識させない家

階段側からリビング、キッチン、ダイニング、玄関を臨む。間仕切り壁のないひとつながりの空間に、複数の要素が配されているのがユニーク。自然に人を呼び込み、人と人の交流を促すプランでもある。ゆるやかなスロープが設けられた広々とした玄関は、土間のようにも使える便利なスペース。

仕事も趣味も充実した日々を送るシニア世代のことを、アクティブシニアと表現する。今回紹介する「パオ・リーベ」は、50代半ばの元気な夫婦、そう、アクティブシニアに向けた住宅だ。

彼らには、独立した子ども、そして幼い孫がいる。まだまだ現役だけれども、夫婦は陶芸や園芸などの趣味を持ち、仕事とプライベートのバランスをとりながら生き生きと生活している。そんな具体的なイメージを持ちながら野村ホームが考えた、アクティブシニアの家である。

これまでの野村ホームの持つ落ち着きや静謐感といった雰囲気を継承しつつ、モダンのエッセンスを加えたデザインが印象的だが、設計を担当した菅家さんは、老人ホームで働いた経験を持ち、バリアフリー住宅の設計を得意としている。そんな彼を、野村ホームが設計者として起用した。そして、デザインと現実的なバリアフリーにこだわったこの「パオ・リーベ」は誕生したのである。

まず第一に、LDKという概念にとらわれない開放感あるプランが特徴だ。壁を取り払ったのびやかな空間が広がる。「ここで暮らすアクティブシニアにとって、本当に必要なものは何だろうか」。そう考えて生まれたカタチである。空間がゆるやかに連続する中に、玄関、リビング、キッチン、書斎、ギャラリー…さまざまな要素が配されている。

自然の光と落ち着きのある穏やかな雰囲気に満ちている「パオ・リーベ」。そこには、マニュアルに頼らないリアルな加齢配慮、バリアフリー仕様が盛り込まれている。しかし、「バリアフリー」という響きにまとわりつく野暮ったさは微塵も感じさせない。きっと、手すり満載のバリアフリー仕様に抵抗感のあるアクティブシニアにも、すんなりと受け入れられるはずだ。単に段差や壁がなく車椅子でも移動しやすくなっているというだけでなく、精神的障壁（バリア）にも気配りされているのだ。バリアフリーというよりは、ユニバーサルデザインと言うべきかもしれない。

「ここまで大胆に壁を取り払えたのは、野村ホームの剛構造の強さのお蔭」という菅家さん。また、「性能の高い外断熱の家であるからこそ実現できるものです。吹き抜けや大開口を設けるのは簡単ですが、寒くて暮らしにくいのでは意味がありません」とも。これからの人生を楽しむ人の家は、設計や精神面だけでなく、温度のバリアフリーも実現するものでなければならないのだ。発想にバリアのない野村ホームと菅家さんが生んだ、美しきバリアフリーの家「パオ・リーベ」。知るほどにアクティブシニアにぴったりの住まいである。

港北インターモデルハウス　〒224-0044　横浜市都筑区川向町989　☎045-473-3719